

臨時号

北っ子だより



～笑顔でつながる 一人ひとりが認め合える 学校～



令和8年10月30日

松原市立松原北小学校
校長 苅田 洋一

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

令和8年4月23日(木)、全国の小学6年生、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。7月に結果が公表され、6年生の保護者の皆様には個票を返却し、本校の結果の分析をすすめてきました。この紙面を以て分析結果による成果や課題、今後の取組を報告させていただき、児童の学力向上及び豊かな心の育成を一層推進して参りたいと考えております。ご理解・ご協力をお願いいたします。

ただし、この調査結果は、子ども達が身につけるべき学力の一部分であり、これにより子ども達のすべてを評価できるものではないことをご理解いただきますようお願いいたします。

- ・大阪府全体の結果の概要につきましては大阪府のホームページ

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/zennkoku/r08gakuchou.html>

- ・令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については、
国立教育政策研究所のホームページ

<https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>

にアクセスいただくと掲載されていますのでご参照下さい。



【国語】

国語については、知識及び技能を問われる問題はよくできていました。思考力、判断力、表現力、中でも特に書くことに関する問題については課題が見られました。問題形式では記述式の問題に課題が見られました。

- ・下の問題は松北小の児童の正答率が全国よりも5.3ポイント高かった問題です。
- ・学習指導要領の知識及び技能の情報の扱い方に関する事項について問われる問題です。

北っ子がよくできていた問題

問題番号2の二

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないかなぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

〈図〉



- 二 花山さんは、「花山さんの文章の一部」の部①で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。部①に続く文として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
 - 2 例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
 - 3 例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
 - 4 例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

正解は1です。



2 花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いていきます。次の「花山さんの文章の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

- 以下の問題は松北小の児童の正答率が全国よりも 19.5 ポイント低かった問題です。
- 学習指導要領の思考力・判断力・表現力の話すこと・聞くことを問われる問題です。

問題番号①の二の（１）

北っ子があまりできなかった問題

(1)

岡野さんたちのグループは、【動画の一部】をくふうしてさつえいしました。そのくふうとして適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

【動画の一部】

映像	音声
	岡野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」
	岡野 「みなさん、この音を聞いてください。」 『ピー♪（くき笛の音）』 岡野 「これは何の音だと思いますか。」
	水谷 「これはたんぽぽで作ったくき笛の音です。」 岡野 「どうしたらこんな音が出るんですか。」
	水谷 「くき笛は、たんぽぽの花の部分を取りのぞいて」
	水谷 「片方のくきの先をつぶして作ります。」
	水谷 「つぶした方をくちびるでくわえ、風船をふくらませるように息をふきこむと」 『ピー♪（くき笛の音）』 水谷 「このように音を出すことができます。」
	水谷 「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」 『ピー♪（くき笛の音）』『ポー♪（くき笛の音）』
	岡野 「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

正解は2と5です。



【岡野さんたちの考え】

草花遊びは一人でできるものもあるけれど、みんなで遊べるものを作ろうかと思いましたほうが、休み時間をより楽しく過ごせると思うな。



岡野さんの学級では、学校生活をより楽しくするために、休み時間の過ごし方を動画にして学校のみんなにしようかということになりました。岡野さんたちのグループは、草花遊びをしようかというと思っています。次の【岡野さんたちの考え】をよく読んで、あとの問いに答えましよう。

- 1 草花で遊べる場所への行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めている。
- 2 くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしている。
- 3 くき笛を作る映像に文字の説明を加えて示すことで、遊び方の手順が伝わるようにしている。
- 4 くきの長さを映像で比べて示すことで、くき笛にしやすいたんぽぽを見分けやすくしている。
- 5 手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

【算数】

算数については、数と計算については比較的よくできていました。課題が見られたのは図形とデータの活用に関する項目でした。

- 下の問題は松北小の児童の正答率が全国よりも 4.7 ポイント高かった問題です。
- 学習指導要領の数と計算に関して問われる問題です。

北っ子がよくできていた問題

問題番号②の(1)

2

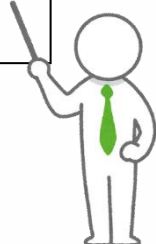
ことねさんは、ある動物園について調べています。

(1) 先月の入園者数は 74291 人でした。

74291 を、千の位までのがい数で表します。百の位の数^{ししやごにゅう}を四捨五入してできる数を、下の **ア** から **エ** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 70000
- イ 74000
- ウ 74300
- エ 75000

正解はイです。



- 下の問題は松北小の児童の正答率が全国よりも 16.8 ポイント低かった問題です。
- 学習指導要領の図形に関して問われる問題です。

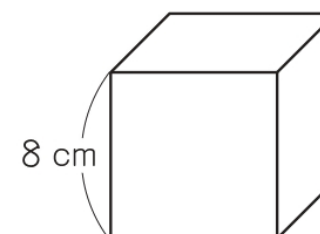
北っ子があまりできなかった問題

問題番号①の(1)

1

立方体や直方体について考えます。

- (1) 1 辺が 8 cm の立方体の体積が何 cm^3 を求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



正解は $8 \times 8 \times 8$ です。

8×8 と書いている児童が多くいました。



【算数】

- 下の問題は松北小の児童の正答率が全国よりも 12.1 ポイント低かった問題です。
- 学習指導要領のデータの活用に関して問われる問題です。

北っ子があまりできなかった問題

問題番号④の(1)

4

6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょに、ボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

(1) 1年生の各学級の人数は、下の表1のとおりです。

表1 1年生の各学級の人数 (人)

学級	1組	2組	3組	合計
人数	29	30	28	87

さくらさんたちは、1年生にアンケートをとり、どの遊びに参加するかを1つ選んでもらいました。



アンケートは1年生全員から集め、無回答はありませんでした。

下の表2は、集めたアンケートを整理したものです。

表2 1年生が選んだ遊び (人)

遊び \ 学級	1組	2組	3組	合計
ボール遊び	9	14	8	31
おにごっこ	8	7	10	25
昔遊び	12	6	10	28
合計	29	27	28	84



1年生全員からアンケートを集めたのに、表2には、全員分のアンケートが整理されていないのではないのでしょうか。



全員分のアンケートが整理されていない学級があります。

表1と表2を見ると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」が1つあることがわかります。

「全員分のアンケートが整理されていない学級」は何組ですか。その学級を書きましょう。

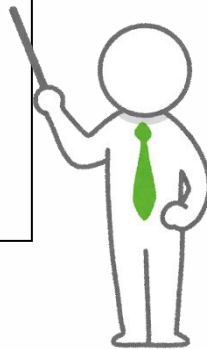
また、そのことは、表1のどの部分と表2のどの部分を比べるとわかりますか。言葉と表1と表2の の中の数を使って書きましょう。

正答の条件は以下の通りです。

学級を2組と書き、次の①、②の全てを書いている。

- ① 表1の2組の人数が30人であることを表す数と言葉
- ② 表2の2組の合計の人数が27人であることを表す数と言葉

※ 松北小の児童が無回答の割合が高かった問題でもあります。



《児童質問紙の結果から》

肯定的回答の結果がよかった質問項目 ()内は全国と比較してのポイント差

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (+12.7P)
- ・朝食を毎日食べていますか (+5.0P)
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか (+4.3P)
- ・自分には、よいところがあると思いますか (+2.7P)
- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか (+2.7P)
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (+1.9P)
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか (+0.8P)



予習と復習

家庭学習が宿題をする時間だけになってはもったいないです。宿題は主に授業内容を思い出し、自分で学びなおす時間です。宿題が終わったら、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところに挑戦したりするのもいいでしょう。そして、できたら次に学ぶところをあらかじめ調べて予習するのももっと効果的です。次の学習のポイントやわからなくて質問したいことなどをあらかじめわかって授業にのぞめます。予習は学ぶ意欲を育て、復習は学んだ記憶を定着させます。家庭学習の充実にはぜひ挑戦してみてください。

肯定的回答の結果がよくなかった質問項目 ()内は全国と比較してのポイント差

- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか (-19P)
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか (-14.5P)
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか (-10.8P)
- ・あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか (-9.6P)
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (-9.5P)
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (-9.0P)
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (-7.8P)
- ・将来の夢や目標を持っていますか (-5.2P)
- ・人が困っているときは、進んで助けていますか (-4.3P)



特に課題である質問項目

- ・平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾などを含む）
30分未満と回答した児童の割合が51.6%（全国は20.2%）

半数以上の児童が家庭学習時間がとても少ない状況

- ・平日1日当たりどれくらいの時間、スマホ、ゲーム等でSNSや動画視聴などをしますか

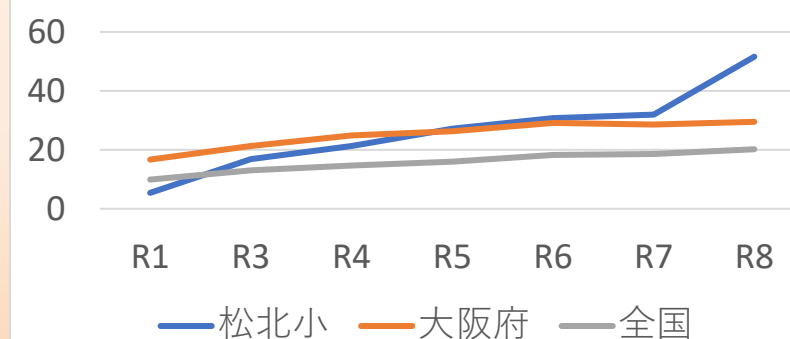
3時間以上と回答した児童の割合が51.7%（全国は37.6%）

半数以上の児童がゲームやスマホをしすぎている状況



下のグラフは北っ子の家庭学習時間の経年変化です。全国や府も家庭学習時間は緩やかに現状傾向にあります。しかし、北っ子はコロナ禍以降、家庭学習時間の減少が顕著になっています。

家庭学習が30分以下の児童の割合



松原北小学校では現在「言語能力をはぐくむモデル校」として学力向上を目指した授業改善に取り組んでいます。思いや考えを言語化し、表現できることを目指しています。

また、学力向上には家庭学習習慣の定着がとても大切です。家庭学習習慣は小学校卒業後、その重要性を増していきます。小学校の低学年の間に習慣づけばその子の一生の宝となります。

そして、学校の様々な取り組みをより効果的に行うため保護者の皆さんにご協力をおねがいします。「早寝早起き朝ごはん」を特に大切にしたいと思います。睡眠と栄養が学校生活を落ち着いて健康的に送るためには必要不可欠となります。また、スマホやゲームの時間、年齢制限などの管理についても保護者の管理の下お願いします。寝不足やネットのトラブルなどが翌日の学校生活に大きな影響を及ぼし、トラブルのもととなることも少なくありません。是非、お子様と話をさせていただきますようご理解とご協力をお願いいたします。